

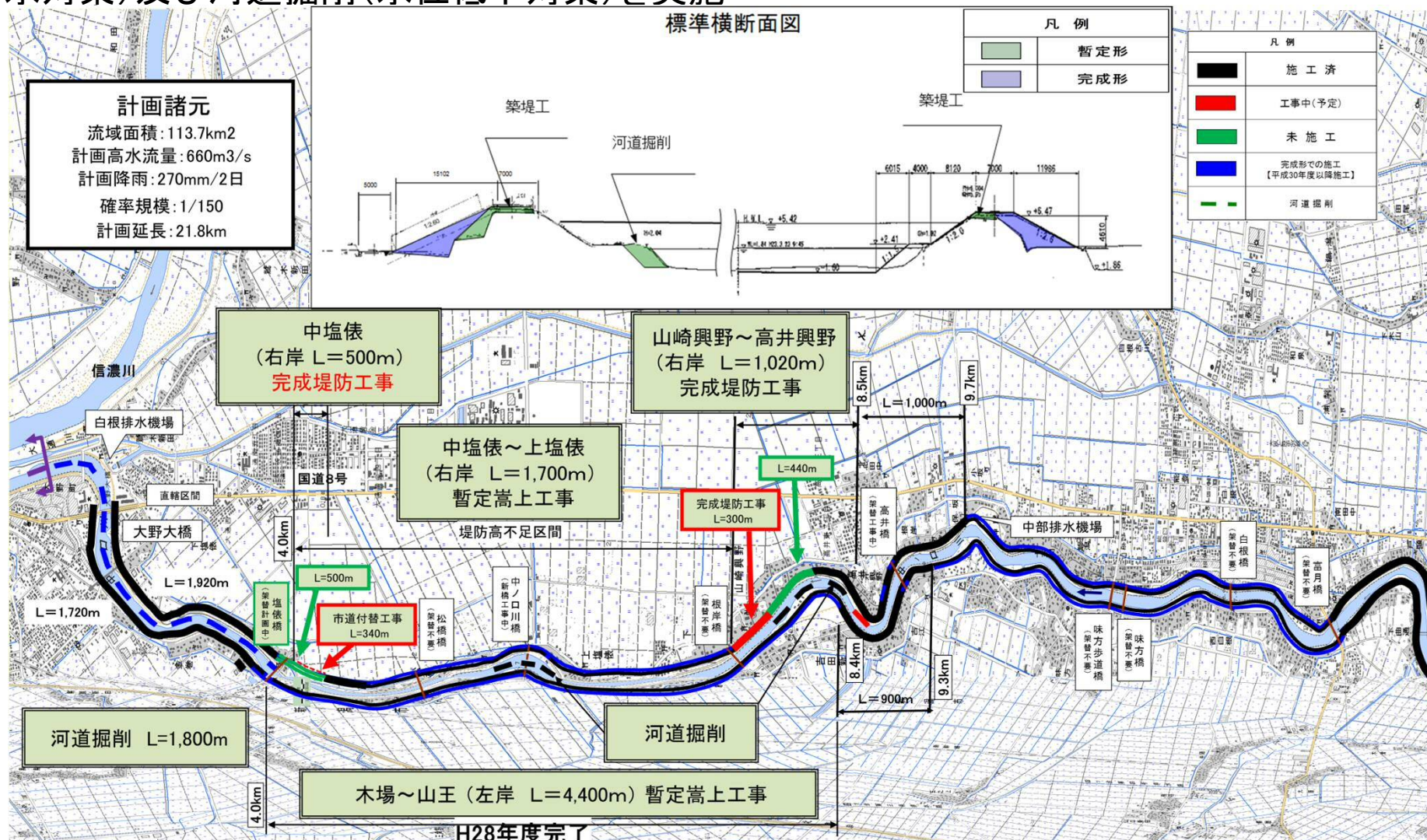
# ～新潟県土木部～

# 新潟県の取組(ハード対策)

## 洪水氾濫を未然に防ぐ対策の強化(中ノ口川の漏水対策、堤防整備、河道掘削)

### ●中ノ口川築堤・河道掘削

・H23出水対応として、築堤(漏水対策)、計画堤防高不足区間の暫定的な堤防嵩上げ(越水対策)及び河道掘削(水位低下対策)を実施



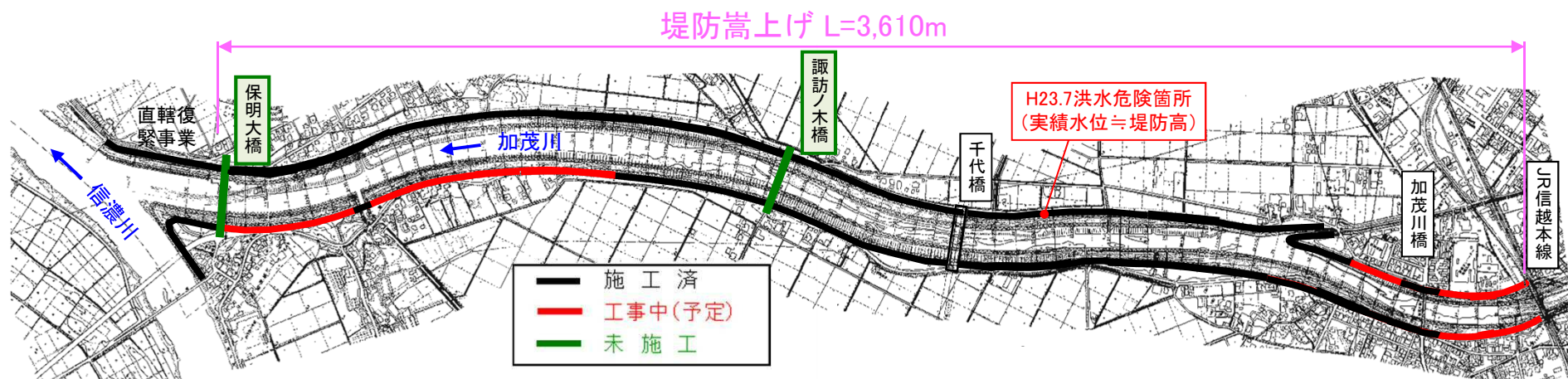


# 新潟県の取組(ハード対策)

## 洪水氾濫を未然に防ぐ対策の強化(支川堤防整備)

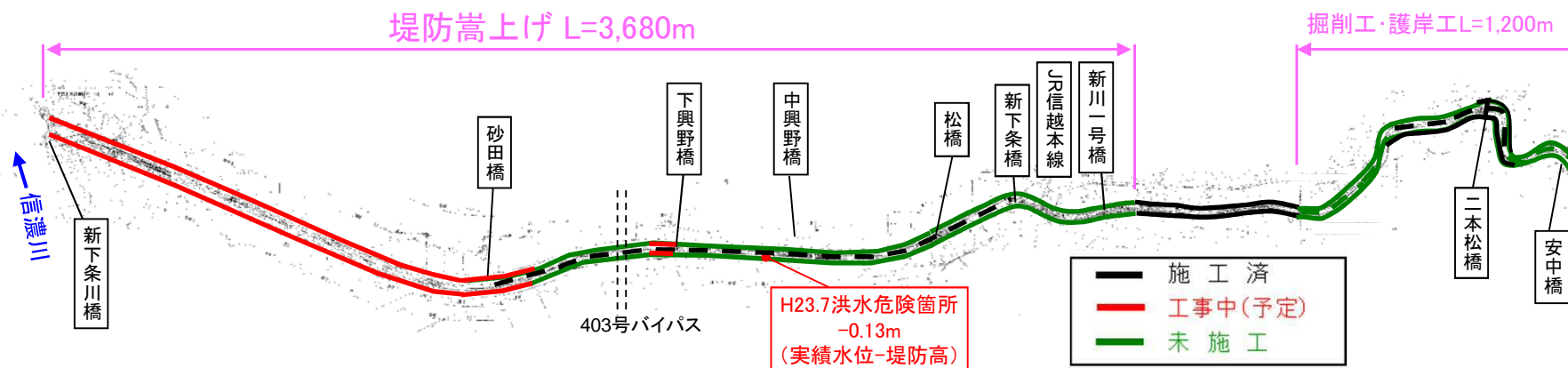
### ●加茂川の堤防整備

- ・信濃川の背水区間において堤防の嵩上げをおこない越水対策を進めている。



### ●下条川の河川改修

上流の河道改修を進めるとともに、信濃川の背水区間において堤防の嵩上げをおこない越水対策を進めている。



## ■自治体への情報伝達（ホットライン）

### ●新潟県ホットライン活用ガイドライン(河川版)の主な内容

#### 【定義】

- ホットラインは、県・市町村の事務(水防)担当者がそれぞれの役割を確実に実行したうえで、さらに危機的事態に備える最後の手段
- 市町村長はホットラインを待つことなく避難勧告等の発令の措置をとるべきことにも留意
- 現段階では河川に関する情報提供が対象

#### 【対象河川】

- 洪水予報河川・水位周知河川を基本とする
- その他、浸水発生頻度の高い河川など、リスク情報や河川管理の実情を踏まえ市町村と相談して選定する

#### 【伝達者及び受達者】

- 伝達者は地域整備部長及び事務所長
- 受達者は市町村長を基本とするが、市町村の事情を踏まえ必ずしも市町村長に限定しない(避難判断ができる方)
- 双方向化が望ましい

#### 【伝えるべき事項】

- 市町村長に危機的な状況下にあることの「気づき」を促す内容
- (例)「市町村で定めた避難勧告発令基準の水位に達しているのにまだ避難勧告が出ていないが大丈夫か？」

#### 【タイミング】

- 避難勧告の発令基準に達しているにも関わらず、災害の混乱等により市町村長が避難勧告を出していない時
- これ以上放っておくと人的被害が発生すると判断される時
- 市町村と事前調整を行いタイミングを決定・共有

#### 【その他の留意点】

- 事務担当レベルを含めた市町村との事前調整、情報共有が重要
- 伝達者と受達者の良好な信頼関係構築が重要

※本ガイドラインは、運用していく中で課題がでてきたら随時更新していく

# 新潟県の取組(ソフト対策)



## ■水害危険性の周知方策（気象台と連携した流域雨量指数の活用）

- 県が管理する中小河川では水位上昇が非常に速いため、水位だけを見ていたのでは市町村や住民に対して水害危険性の周知が困難



- 気象庁(台)は、降雨の予測をもとに数時間先の河川ごとの洪水危険度を予測している。（流域雨量指数）
- 今年度より流域雨量指数を精緻化し、6時間先までの予測値を「防災情報提供システム」で公開予定（流域雨量指数の精緻化により県内910河川を網羅）。

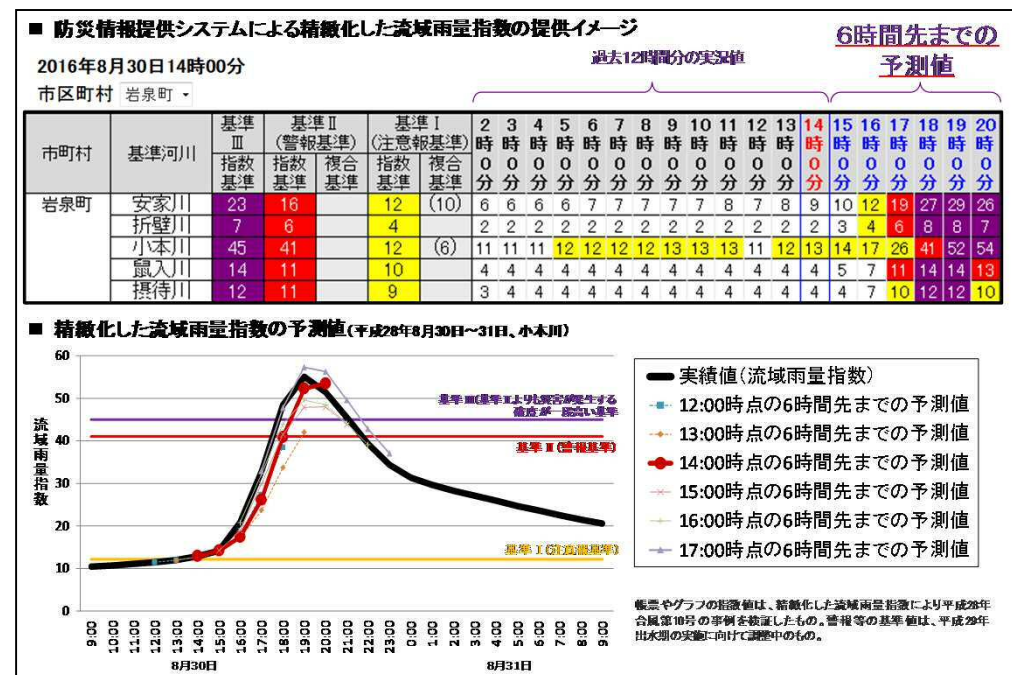


中小河川の水害危険性を周知する方策として有効

- 新潟県では、気象台(庁)と連携して「流域雨量指数の予測値を活用した水害危険性周知の取組」を試行する。
- 村上・糸魚川をモデル地区として選定。
- 数時間先の流域雨量指数の予測値が特定の基準に達した時点で気象庁から県・市にプッシュメール配信。



県・市は水防体制確立（詳細は検討中）





## (様式2-取組概要)

カテゴリー	河川防災情報システムの改良スマートフォンを活用した情報発信 水位・気象情報等の情報発信
内 容	河川防災情報システムの改良
実施主体	河川管理課

河川管理課では、住民自らがリスクを察知し主体的に避難できるように、危険度の切迫度等が伝わりやすい防災情報を提供するため、河川防災情報システムの改良を行いました。

### 【従前】

- ・川は県境を越えて流れてくるが、システムでは県内の水位情報だけを表示 → 予測の遅れ

### 【改善後】

- ・河川防災情報システムにおいて、信濃川、阿賀野川、只見川、荒川の県外水位局を表示

### 【従前】

- ・河川防災情報システムの既存画面は、スマートフォン上における視認性が悪い  
→ 水位周知体制が不親切

### 【改善後】

- ・スマートフォン版サイトを新たに構築



気象警報や土砂災害警戒情報の発表状況をトップページで表示

地図にGoogle mapを採用し、視認性と操作性が向上

## (様式2-取組概要)

カテゴリー	新技術を活用した水防資機材の検討及び配備
内 容	水防資機材の確認整備
実施主体	新潟地域振興局地域整備部

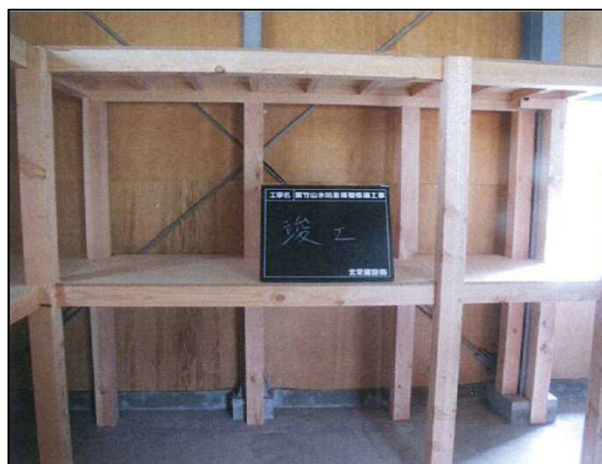
新潟地域整備部では、紫竹にある水防倉庫に棚を設置して水防資機材の収納力及び使い易さの向上を図りました。

### 【実施概要】

- ・ 実施内容：紫竹の水防倉庫を修繕（棚の設置）
- ・ 工 期：平成28年8月1日～平成28年8月30日
- ・ 整備効果：① 棚設置による空間利用による収納力の向上  
② 資機材の整理により使い易さの向上  
③ 庁舎移転に伴い、現庁舎で保管している資材も収納（装備の減量化を低減）



水防倉庫修繕前



棚設置完了



収納状況

## (様式2-取組概要)

カテゴリー	排水計画に基づく排水訓練の実施、排水機場・水門・樋門等の情報共有
内 容	関係機関が連携した樋門・排水機場の操作訓練の実施
実施主体	三条地域振興局地域整備部、国土交通省、三条市

出水時において、迅速かつ的確な樋門・排水機場の操作を行うため、三条地域振興局地域整備部、国土交通省、三条市が連携して、樋門・排水機場の操作訓練を実施。

### 【実施概要】

- ・ 日 時：平成28年6月10日(金) 8:30～16:40
- ・ 内 容：① 国管理の樋門操作訓練（樋門操作は委託先の三条市）  
② 県管理の排水機場操作訓練  
③ 国による排水ポンプ車の訓練



三条市による樋門の操作訓練状況



排水機場・排水ポンプの排水状況



国による排水ポンプ車の訓練状況



## (様式2-取組概要)

カテゴリー	住民を対象とした水防災教育の実施
内 容	小、中学校を対象とした出前講座
実施主体	長岡地域振興局地域整備部

刈谷田川(防災教育、防災スクール)において出前講座を実施

### 【防災スクール】

- ・ 日 時：平成28年7月19日（火）出前講座、平成28年8月25日（木）現地説明
- ・ 対 象：見附市立名木野小学校 5 年生 5 1 名他教員 2 名
- ・ 内 容：平成16年7.13水害の被害状況、遊水地の機能を説明  
平成23年新潟福島豪雨時の遊水地の効果等、遊水地施設について現地説明

### 【防災教育】

- ・ 日 時：平成28年8月2日（火）
- ・ 対 象：見附市立見附中学校 2 年生 7 7 名他学校職員 7 名
- ・ 内 容：平成16年7.13水害、平成23年新潟福島豪雨の概要、遊水地施設の機能・効果の説明



7月19日 名木野小学校



8月25日 名木野小学校



8月2日 見附中学校

## (様式2-取組概要)

カテゴリー	見附市と連携した刈谷田川遊水地安全施設作動訓練の実施
内 容	遊水地内に越流を想定した安全施設の作動訓練
実施主体	長岡地域振興局地域整備部

遊水地内に越流した事を想定した安全施設の作動訓練の実施及び見附市防災用サイレン音と遊水地内サイレン音の区別を関係地区に周知させることを目的としている。

### 【作動訓練】

- ・ 日 時：平成28年6月19日
- ・ 出席者：新潟県長岡地域整備部治水課2名、樋門操作委託業者7名、電気設備点検業者1名
- ・ 内 容
  - ①樋門閉扉前遊水地内パトロール（ルート確認及びパトロール完了までのタイム計測）
  - ②安全周知【レベル1】：回転棟、避難アナウンス、疑似音
  - ③遠方操作室からの各種樋門開閉作動確認
  - ④安全周知【レベル2】：避難アナウンス、サイレン吹鳴



遊水地施設作動訓練前打合せ



各池内パトロール状況



遠隔操作による各種樋門の作動確認